

須川

一九七五年七月十二日

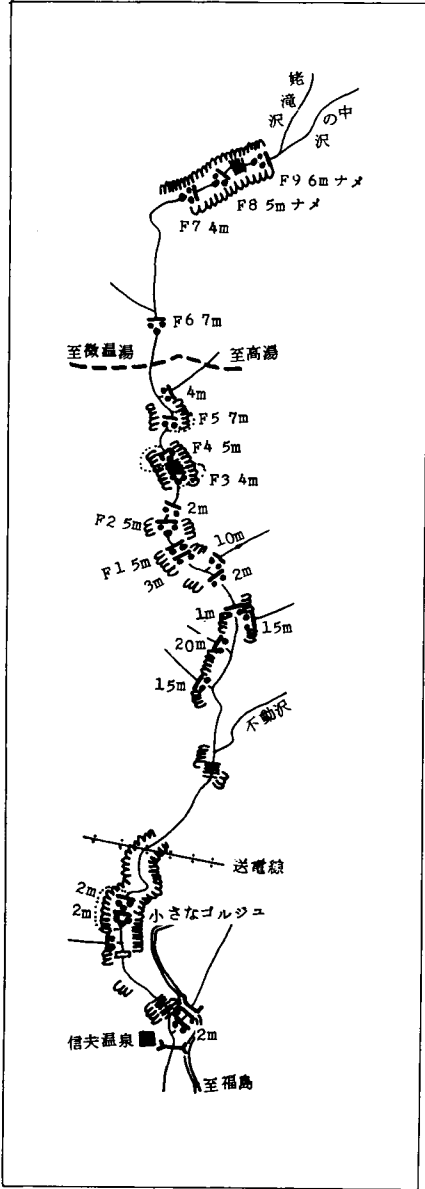
◆天気(雨)

午前中は全く雨が降らなかったのに、午後になったら雨が降ってきた。今日も雨中沢登りかと思いなながら駅へ行く。信夫温泉まで半沢君に送ってもらい、つり橋の所から沢に入る。すぐ左岸から小滝をかけて小沢が合流し

ている。

須川本流の遡行を開始するが滝は出てこない。小さな瀬と遷急点が交互に続くのみである。砂防ダムをまいた所で急に沢幅が狭くなり、小さなゴルジュとなる。二つほどの二つの小滝がかかっている。どちらも釜が深い。最初のは右岸から簡単に越すが奥のはちよつと困難。泳ぐのはいやなので右岸を高捲きして先に進む。また沢は平凡。

途中沢が大きくカーブする所を過ぎて、一五時一〇分



須川 (作図: 〃)

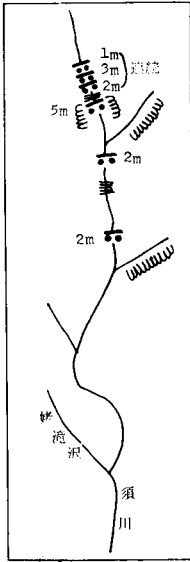
不動沢との合流点に着く。右の不動沢の水は真っ白に濁っていて沢床は見えない。反対に左の須川本流は澄んでいて、川床が一面に赤いのがよく観察できる。先に進む。

左右から合流する小沢にかかる滝が美しい。五層クラス、四層の滝の左岸を捲き、不安定なガレ場を下って沢床にたつたら、そこはナメの連続する暗いゴルジュ。喜んだらすぐ五層の滝、右岸の急傾斜の斜面を樹木だけを頼りに高捲く。時間的に遅くなってきたこともあって更に更にピッチをあげる。七層の滝を高捲きした後には左岸から四層の滝をかけて小沢が合流している。

登山道はそこからすぐの所であった。沢からあがり高湯へ向けて大急ぎで歩を進める。(記・一) X

(タイム)

信夫温泉一三・一〇—不動沢出合一五・一〇—登山道



中の沢

(作図：チノ)

一八・二〇—高湯一八・五五

中の沢

一九八〇年九月二十一日

◆天気(曇)

微温湯温泉の手前に車を止めて姥滝沢へ歩く。だいたいヤブがかぶさってきているが道はわかる。姥滝沢に入り、ワラジをつけ中の沢出合まで下降する。一〇分程で着く。

次に中の沢の遡行に移るが、広くもない河原が続くだけで何の変化もない。ようやく二層程の小滝にめぐりあう。次にナメ、そして又二層程の小滝となる。それを過ぎると二俣。

水量は天狗の庭に出る右沢の方が多いが、地形からいって左沢の方がおもしろいのでそっちに入る。まもなく兩岸が切り立った岩場になり急な登りとなる。兩岸がだんだんせばまってきた最奥部に五層程の滝がかかっている。シャワーで登りきると二層、三層、一層と三つ小滝が続いている。この先は広い河原となつて前方にスカイラインが見えてくる。沢も終わりである。左の尾根